

この特報は、5/17 発行の「もも・ネクタリン特報No.⑤」の薬剤散布（散布目安は、6/4～10 頃）が終わってから行なう防除を掲載しています。特報No.⑤の内容を再度、ご確認ください。

注意事項（もも・ネク共通）

- ・せん孔細菌病の感染拡大が心配されるため、展着剤は固着性展着剤アビオン E の 1,000 倍を使用する。
- ・デランフロアブルは薬剤の特性上、容器の底に固まる場合があります。混用する際は、容器をよく振り、なじませてからご使用下さい。
- ・劇マークの農薬は、「劇物」です。ご購入の際は印鑑をご持参ください。

も も

第7回 定期散布

モモとネクタリンの混植園ではネクタリン防除を実施する。

散布時期

6 月中下旬 （第 6 回 定期散布から 1 4 日後）

・散布日の目安：6 月 1 8 日～2 4 日

散布日 6 月 日

散布量 リットル

散布薬剤

水 1 0 0 リットル当り

- | | | |
|----------------|----------|---------------------|
| アビオン E（固着性展着剤） | 1 0 0 ml | |
| 劇 デランフロアブル | 1 6 6 ml | （収穫 7 日前まで、4 回以内） |
| 劇 ダーズバン D F | 3 3 g | （収穫 1 4 日前まで、5 回以内） |
| マイコシールド | 6 6 g | （収穫 2 1 日前まで、5 回以内） |

散布量

1 0 アール当り 6 0 0 リットル

混用順

水 ⇒ 展着剤 ⇒ デランフロアブル ⇒ ダーズバン D F ⇒ マイコシールド

対象病害虫

せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、シンクイムシ類、ハマキムシ類、ウメシロカイガラムシ

【注意事項】 カメムシ類 発生園は、スミチオン水和剤 40 の 1,000 倍（収穫 3 日前まで、6 回以内）を加用する。

ネクタリン

第7回 定期散布

散布時期

6 月中下旬 （第 6 回 定期散布から 1 4 日後）

・散布日の目安：6 月 1 8 日～2 4 日

散布日 6 月 日

散布量 リットル

散布薬剤

水 1 0 0 リットル当り

- | | | |
|----------------|----------|---------------------|
| アビオン E（固着性展着剤） | 1 0 0 ml | |
| 劇 デランフロアブル | 1 6 6 ml | （収穫 1 4 日前まで、2 回以内） |
| 劇 ダーズバン D F | 3 3 g | （収穫 1 4 日前まで、2 回以内） |
| スターナ水和剤 | 1 0 0 g | （収穫 7 日前まで、3 回以内） |

散布量

1 0 アール当り 6 0 0 リットル

混用順

水 ⇒ 展着剤 ⇒ デランフロアブル ⇒ ダーズバン D F ⇒ スターナ水和剤

対象病害虫

せん孔細菌病、黒星病、灰星病、ホモプシス腐敗病、ハマキムシ類、シンクイムシ類

【注意事項】 晩生種で、せん孔細菌病 多発園は、スターナ水和剤に代えてマイコシールドの 1,500 倍（収穫 28 日前まで、5 回以内）を使用する。

次ページには管理作業が掲載されておりますので、ご覧下さい。

落花期以降、「弱樹勢・葉色が薄い」等の症状が散見されます。
ももネク特報③の裏面を参考に、「追肥・葉面散布」により対応下さい。

1、かん水について

- ・ 10日以上、雨が降らない場合は、右表を参考にかん水を行なう。
- ・ 10a 当り 1 ミリのかん水を行うには、水量 1 t が必要です。
- ・ 保水性の低い砂質土壌や根域の浅い土壌では、1 回のかん水量を少なくし、間隔を短くする。
- ・ 水源が少ない場合は、細根があると思われる部分に重点的にかん水する。

もも 時期別のかん水量の目安（成木）

時期	10 a 当り かん水量
5～8 月(成熟 10 日前まで)	20～30 ミリ
成熟 10 日前～成熟期	5 ミリ

2、仕上げ摘果

- 満開 40～50 日後頃に実施
- * 本年は、6 月 5 日～6 月 20 日頃を目安に実施する
 - * ただし、晩生種で「せん孔細菌病」発生園は、被害果を見極めるため摘果時期を遅らせる。

もも 結果枝別着果量の目安

結果枝	予備摘果	仕上げ摘果
長果枝	2～3 個	1～2 個
中果枝	1～2 個	0～1 個
短果枝	0～1 個	0～1 個

(長野県果樹指導指針より)

3、仕上げ摘果の要領

結実量が少ない場合は、品質・着果位置が悪くても基準量を確保する。

- ・ 成木 10 a 当りの目標着果量は、10,000～12,000 果とする。樹勢が弱い場合は、着果制限する
- ・ 残す果実は、大きくて扁平な果実を残す
- ・ 着果位置は、結果枝の側方、または下方の果実を残す（上方は摘果する）
- ・ 長果枝（30cm 以上）が 2 果、中果枝（10～30cm）が 1 果、短果枝（3～10cm）が 6～10 枝に 1 果着果させる（* 図 1 参照）
- ・ 葉枚数は、モモが 1 果当り 40～60 枚、ネクタリンが 30～40 枚必要
- ・ 順序は、白鳳系・あかつき・なつっこ・白根 → 川中島白桃・ネクタリン → 黄金桃とする
（黄金桃やファンタジアは生理落果が多いためやや遅めに実施する）

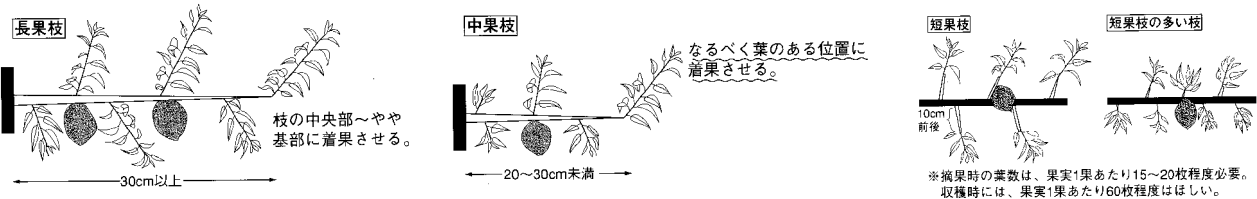
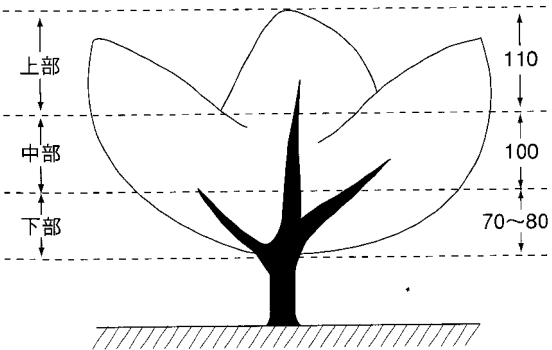


図 1 結果枝別の最終着果量

4、仕上げ摘果の留意点 * 硬核期（満開後 50～70 日）の極端な摘果は、核割れを助長するので控える。

- ・ 日照条件の良い樹冠上部の着果量を多めに、条件の悪い下部を少なめする（* 図 2 参照）
- ・ 大きくて丸味のある果実は、双胚果の可能性が高く、生理落果や「核割れ」発生の要因にもなるので摘果する（* 図 3 参照）
- ・ 生理落果や双胚果が多い場合は、仕上げ摘果でも多めに残しておき、袋掛け前に修正する
- ・ 無袋栽培は、枝葉の繁茂によって、果実が見えにくいため着果過多や着果ムラになりやすいので、枝を持ち上げて下方からよくみて実施する。



樹冠中部の着果量を100とした場合

- ・ 玉張りの悪い下部は70～80程度と少なめにする。
- ・ 玉張りのよい樹冠上部は110程度と多めに残す。

図 2 樹冠部位置別着果程度

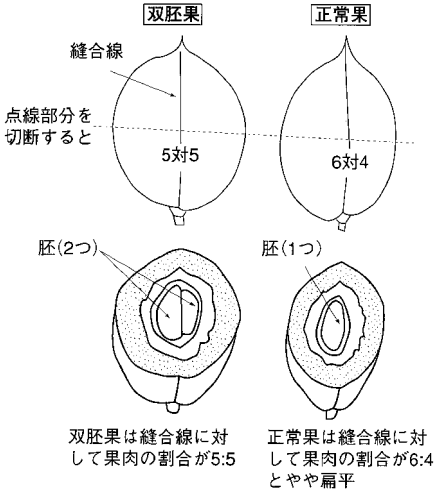


図 3 双胚果と正常果の違い